



南の光明

The Catholic Diocese of Naha Newsletter

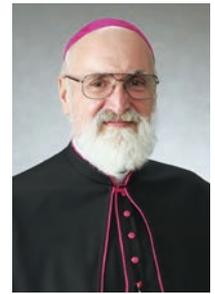
今年の教区の目標

すべての命を守るため、
キリストと共なる
平和の道を歩みましょう。

〒902-0067 那覇市安里3-7-2
カトリック那覇教区本部
TEL.098-863-2020 FAX.098-863-8474
発行人 W.F.バートン司教 1部40円
<http://www.naha.catholic.jp/>

(1) 2020年12月1日 (毎月1日発行) カトリック那覇教区報 MINAMI NO KŌMYŌ 第745号 (12月号)

2020年クリスマス・メッセージ「神を見る」



カトリック那覇教区長
ウエイン・F・バートン司教

那覇教区の兄弟姉妹の皆さん、
クリスマス、おめでとうございませう。例年通りなら、クリスマス・パーティー、飾りつけ、クリスマススイブのミサなどに思いを馳せ、喜びをもって計画することでしょう。しかし、今年は皆さんの周囲の人の健康も守ることに配慮しながらの計画となるため、今年のクリスマスは普段よりもシンプルで静かな祝い方となり、残念で寂しい感じがしているかもしれません。

しかし、大きな祝い方であっても、シンプルな祝い方であっても、クリスマスの意味、「あなたがたのために救い主がお生まれになった」(ルカ二・11b)という天使たちのよいお知らせに変わりはありません。むしろ、キリストは「神の身分でありながら、神と等しいものであることに固執しようとは思わず、かえって自分を無にして、しもべの身分になり、人間と同じ者に

なられました」(フィリピニ・67a)、「この方こそ主メシアである」(ルカ二・11c)という福音の深い意味を静かに、より深く味わうための絶好の機会となるでしょう。

ところで、クリスマスは馬小屋の飾りつけはよい工夫だと思えます。あるクリスマス、私のファミリーがいつものように、一緒にご馳走を食べるために遠いところから実家に集まりました。お祝いムードで皆は最近のニュースなどについて喋ったりして楽しんでいたので、その間母がずーっと黙ったまま居間のクリスマス飾りつけを見回していることに気が付きました。

そこで、皆は話に加わらない母の体調がよくないのか、それとも心配ごとがあるのかと気遣っていると、急に母は「ああー」と叫びながら地下室に走っていききました。数日前、父がクリスマス飾りを地下の部屋から出したとき、すべての飾りを居間まで運び込んだとばかり思っていました。大事な馬小屋を忘れてしまっていたのです。実家の馬小屋はとても古いものですが、家族の宝物でした。ずっと昔から代々に受け継いだこの馬小屋は、キリスト様がいつもわたしたちと共に歩んでいるという大切なファミリーシンボルだったので。両親にとつて、クリスマスの馬小屋がないなら、他の飾りつけは何の意味もありません。母はいつものところに大切な馬小屋を飾ってからやっとニコニコして皆の話しを聞いたり、楽しく喋ったりしたのでした。やはり馬小屋はクリスマスの心を表すために欠かすことのできない大切な工夫だったので。

ちいさな馬小屋で生まれた救い主イエスの誕生をシンブルに祝うために霊的準備に専念しましょう。霊的準備にはいろいろありますが、何と云っても祈り、ゆるしの秘跡、そして愛の行動は大切です。二〇二〇年前にキリストはちいさな飼料葉桶に生まれましたが、今年はキリストが私たち一人ひとりの心の中に新たに生まれます。今の心の状態はどうでしょうか？キリストを喜んで迎えるためには、福音に適さないことすなわち、憎しみ、恨み、妬み、非難、などを心から追い出して、その代わりに福音に適う、愛、希望、信仰、ゆるし、和解などを身に着けることは相応しい準備だと思えます。人は祈りによって自分と向き合うことができます。良い面、悪い面、両方とも祈り(内省)を通してはつきり見えるようになる恵みをうけます。そしてその恵みに応えてゆるしの秘跡を頂くなら、いらない悪いものを心から捨てることができます。また、徳を身に着ける方法は愛の行動です。相手の間違いを許さない自分を認め、心から相手を許すように回心するならば、その心の動きだけでもそれは愛の行動の一つとなります。もちろん病人のための祈る、孤独に暮らす人を励ます、困っている人に手を差し伸べるなどの具体的な愛の行動もあります。しかし、最高の降誕祭の準備は、あの幼子のように完全にゆだねる姿です。幼子イエスの姿を見つめましょう。

そこには、誰一人をも失いたくないとの神の熱い思いが、自らを人の手にゆだねるといふ信じがたいほどの信頼をもって私たちに伝えられた神の信頼に私たちが信頼をもって応え、すべてを神にゆだねま



しよう。このような準備をするなら清い心でキリストを迎えることができるでしょう。聖書に書いてある通り「心の清い人々は幸いである。その人たちは神を見る」(マタイ五・8)。

自分の心の中に「神を見る」ことができるなら、シンプルに祝う今年こそ例年になく素晴らしいクリスマスをお祝いすることになると思います。

わたしが主にささげられるものは何だろう。この小さきわたしが。わたしが羊飼いだったら、子羊をささげよう。博士だったら、黄金をささげよう。しかし、このわたしが主にささげられるものはいったい何だろう。ああ！そうだ、何も無いわたしは、自分の心をささげよう。

2020 Christmas Message “To See God”

By: Bp. Wayne Francis Berndt, OFM Cap.

Dear Brothers and Sisters of Naha Diocese,

Merry Christmas to everyone! Usually at this time of the year, we are all making plans for Christmas Mass, the Christmas party, for decorating and for getting together to celebrate. However, this year is a bit different as we must think about one another's health while we plan for Christmas, so this year's Christmas celebrations will probably be more simple and quieter than the usual.

However, whether we have a big celebration or a simple celebration, the message announced by the angels to the world remains the same. “A savior has been born to you.”

(Lk 2:11b). Christ, “being in his very nature God, did not consider equality with God something to be used to his own advantage; rather, he made himself nothing by taking the very nature of a servant, being made in human likeness.” (Phil. 2:6-7a). “He is the Messiah, the Lord.” (Lk 2:11c). With the quieter celebrations this year, it may be a good opportunity to take the time to really savor the deep meaning of these scriptural passages.

One useful tool for contemplating the meaning of Christmas is to be sure to have a Manger as part of your decorations. I remember one Christmas when I was young, when as usual the family all got together at my parents' house to celebrate Christmas. We were thinking about the good food and hearing from each other all the recent news in the family. My mother was unusually quiet and just kept looking at all the Christmas decorations in the living room. My mother loves to catch up on the news so all of us were really surprised when she was so quiet and thought she might be sick. Suddenly she said, “That is what's missing!” and ran down to the cellar. A few days before my father had brought up all the Christmas decorations and he thought he had everything. However, he had forgotten to get the Manger with the baby Jesus. Our family Manger is very old and has been passed down from generation to generation from my great grandparents. Despite its being old and a bit run down, it is an enduring symbol of our family and all the struggles we have overcome. It is also the symbol of God's love for my family. For my parents, all the other decorations are not really needed if we have the family Manger. Without the family Manger, the other decorations lose their meaning. Once the Manger was in place, my mother was her usual self, talking and eating and enjoying everyone's company. In the celebration of Christmas, a Manger can become a real symbol for each family of God's love for us. And a good place before which to pray and reflect together on the meaning of Christmas.

This year with simpler celebrations, we could put more emphasis on our spiritual preparations. I suggest three forms of preparation: prayer, confession and works of charity. Through prayer we can really come to see ourselves; both the good and the bad. By confessing our sins, we can be forgiven and feel at peace. Through works of charity we can grow in virtue. By calling a lonely friend, by visiting the sick, and by helping the poor we can grow in the virtue of love. Internally we can really grow in love by forgiving anyone who may have hurt us. Not easy to do, but a good way to purify our hearts in preparation for Christmas. Jesus was born two thousand years ago in a Manger, but we believe that he comes to us each year in a new way, when he is born in our hearts once again. So, preparing our hearts to welcome our Savior is the best preparation that we can do for Christmas each year. It says in the Bible, “Blessed are the pure of heart, for they will see God.” (Matt. 5:8). If we prepare for Christmas by purifying our hearts, then we will be able to see God within ourselves and others. Even with a simple celebration, to be able to see God within, would make it a very special Christmas.

Let me close this message with a simple children's poem.

What can I give the Baby Jesus?
 If I was a shepherd, I could give him a lamb,
 If I was a Wise Man, I could give him gold.
 But I am just me. What can I possibly give Jesus?
 I know! I will give the Baby Jesus my heart....



兄弟姉妹として

生きるために

(回勒ラオダート・シ番 233-237まとめる)

ボスコ・ティン神父 名護教会 主任司祭



ろ、身体性は、典礼行為において、その価値を全面的に認められており、そこでは、人間の身体は、その内なる本性において聖霊の神殿として示され、また、世の救いのために肉をお取りになった主イエスと結ばれています(番二三五)。

よいだろう」と教えました。たとえば、山前に畏怖の念に打たれて立ちすくむと、人は、その体験を神と切り離すことはできず、生き生きとして内的畏怖は主に帰すべきものであることを知るのです。「山々は高く、豊饒で、広大で、美しく、優雅で、花々が咲きみだれ、芳しい香にみちている。人気がない谷は豊かで、気持ちよく、涼しい木蔭に富みである。清らかな水が、豊かに流れ、そこに生えている種々さまざまな植物や、小鳥たちのやさしい歌声で、人々の感覚を魅了し、楽しませる。またその静寂と沈黙によって、すがすがしいいとを与える。

三、諸秘跡を通して、神を受け入れる(番二三五-二三七)

諸秘跡は、神が自然を、超自然的ないのちを伸介するものへと高まる、特別に恵まれた手段です。たとえば、水、油、火、手、色などです。

祝福する手は、神の愛の道具であり、またわたしたちの人生の旅程に寄り添うために来られたイエス・キリストの近さを映すのです。

洗礼の秘跡。洗礼の際に子どもに注がれる水は、新しいいのちの体にするのです。

聖体の秘跡。創造されたすべてのものももっとも高められるのは、聖体においてです。感覚で捉

えられるしかたで自らを頭わにしようとする恵みは、神ご自身が人となられ、被造物のためにご自分を食物としてお与えになったとき、このうえないかたちで表現されました。聖体において、充滿はすでに実現されています。それは万物のいのちの源であり、愛とくみ尽くすことのできないいのちがあふれ出る泉です。聖体は、天と地を結び、被造物全体を抱き、そして貫きます。神の手から生まれて出た世界は、全被造物が喜びにあふれ一つになって礼拝することを通して、神に帰るのです。すなわち、聖体であるパンにおいて、「被造物は、神化へと、聖なる婚宴へと、創造主ご自身との一致へと向かうようにと造られています」。それゆえ、聖体は、被造物全体の信託管理人であるようわたしたちを導く、環境への関心を照らし生かす光と力の源でもあります。

主日。主日に感謝の祭儀に参加することには、特別な意味があります。主日は、ユダヤ教の安息日と同様、私たちが神との自分自身との、他者との、世界とのかわりを修復するための日です。主日は、復活の日、新しい創造の「第一の日」であり、その初穂は、主の復活した人間性、全被造物の最終決定的な変容です。この日はまた、「神のもとにおける人間の永遠の体息」を告げる日でもあります。体息は、より広い視野をもてるようわたしたちの目を開かせ、他者の権利にあらためて気づかせてくれます。それゆえ、感謝の祭儀を中心に置く体息の日は、週全体を照らし、また、自然や貧しい人々のことをよりいっそう心にかけるよう駆り立ててくれます。

降誕節の間、私たちは天使たちと共にと神を賛美しましょう。「いと高きところには栄光、神にあれ、地には平和、御心に適う人にあれ」(ルカ二・14)。そして、皆、兄弟姉妹と被造物のために祈りましょう。「全能の神よ、あなたは、地球全体の中に、そしてあなたの被造物のうちでもっと小さいものの中におられます。あなたは、存在するすべてのものをご自分の優しさで包んでください。いのちと美とを守られるよう、あなたの愛の力をわたしたちに注いでください。だれも傷つけることなく、兄弟姉妹として生きるために、わたしたちを平和で満たしてください」(わたしたちの地球のための祈り)。

クリスマス おめでとうござい
ます！ 地球 おめでとうござい
ます！ 被造物 おめでとうござ
います！ 神様 おめでとうござ
います！
そして、親愛なる兄弟姉妹の皆さん
おめでとうございます！

一、秘跡のしるし体息の祭犠牲(番二二三)

「天地万物は、偏在する神において、真の姿を開示します。それゆえ、ひとひらの葉に一本の野道に、一滴の露に、貧しいだれかの頭に、神秘的な意味が見いだされるのです」。私として、その神秘は「言は肉となった」のです。つまり、それは降誕のイエスなのです。「言は肉となつて、私たちに間に宿られた」(ヨハネ一・14)。

キリスト者にとって、物質世界のすべての被造物が自ら本当の意味を見いだすのは、受肉したものとばにおいてです。なぜなら、神の独り子は、人となつて物質界と結ばれ、そこに決定的な変化の種を蒔かれたからです。「キリスト教は、物質を否定しません。むしろ、身体性は、典礼行為において、その価値を全面的に認められており、そこでは、人間の身体は、その内なる本性において聖霊の神殿として示され、また、世の救いのために肉をお取りになった主イエスと結ばれています(番二三五)。

聖ポナヴェントウラは「心の中に神の働きを感じれば感じるほど、また、他の被造物において神を認めるほど、観想は深める」とわたしたちに教えます。すなわち、イエスにおいて神を認めるほど、観想は深まるのです。

二、被造物を通して、神を受け入れる(番二三四)

十字架の聖ヨハネは、この世界の存在や経験の中におけるよさはすべて「神において卓越した様式で無限に見いだされる」というように、むしろ、これらの優秀性のおおのは神であるといったほうが

2020年11月拡大司祭・助祭会議議事録

開催日時：2020年11月10日(火) 11:00～12:30 開催場所：教区センター

出席者：ウェイン司教、押川司教、デニス神父、クレーバー神父、アジット神父、ナペーン神父、パトリック神父、ブイ神父、フランシス神父、ヨアキム神父、ボスコ神父、マイケル神父、ピーター・チェ神父、古川神父、ロドニー神父、サニー神父、リカルド神父、藤澤神父(リモート参加)、稲国助祭、新垣助祭、石垣助祭、マーシー・クリストバル、津波古聡、新田選。

議長：アジット神父

1. 報告及び連絡事項

- ・始めの祈りはウェイン司教。特に先日帰天されたブイ神父の父上のために共に祈られた。
- ・ウェイン司教より、読谷教会主任司祭として新たに着任された、フィリピン宣教会のリカルド神父の紹介が行われ、リカルド神父からも挨拶が行われた。
- ・前回(10月会議)の議事録確認－新田。
- ・10月25日(日)に行われた故石神司教の7回忌の追悼ミサについて、ウェイン司教から報告がなされた。故石神司教の甥御さんや親交の深かった Sr.木村もコロナ禍で参列は叶わなかったが、それぞれの場所で、同時刻に祈りを合わせたことが報告された。
- ・10月19日(月)～22日(木)にかけて行われた教区司祭集会について、担当のブイ神父と津波古事務局長から報告が行われた。日程がなかなか決まらない中、どうにか司祭集会を持つことができ、沢山の分ち合いの時間が持てたことは有意義であったこと等が報告された。会計責任者の津波古事務局長からも時期的な便宜も手伝い、思いの外支出を抑えることができたことなどが報告され、ウェイン司教に促されて、参加した司祭それぞれが感想を語った。司祭集会の評価は概ね好評で、今後も継続して欲しいとの要望が多く述べられた。来年は三教区合同黙想会が那覇教区で開かれる予定であり、良き試金石ともなったのではないかと総括された。
- ・11月4日に福岡で行われた「日本カトリック難民移住移動者委員会」の長崎教会管区の担当者会議について、ピーター・チェ神父から報告が行われた。会議では、コロナ禍の状況下で苦境にある外国人信徒たちへの支援について、各教区の取組みが分ち合われた。福岡や大分教区では支援センターを開設して困っている人たちへの支援が行われていることが報告されていた。沖縄でも、色々参考になる取組みがあり、カリタス担当のマーシーさんとも連携しながら、教区としてできることを模索していきたい。
- ・広報委員会から、主日、平日、クリスマスと年末のミサ時間についても、例年12月号に掲載しているもので、変更があれば11月30日まで連絡頂くよう要請がなされた。
- ・その他
- ・福岡の神学院で行なわれた養成担当者会議にリモート参加した担当のヨアキム神父と津波古事務局長から会議の報告が行われた。神学生の人数は減少傾向が加速し、このままでは人数に対して経費過多となり運営が困難になることが強く指摘され、すべての司祭の召命発掘への協力や努力、また、外国からの神学生を受け容れて養成していくことも必要ではないかとの感想が述べられ、深刻な状況が共有された。それゆえ、これまで以上に召命のために沢山の祈りを捧げていく必要があることが訴えられた。
- ・古川神父から「開南教会50周年記念誌」が沢山残っているので、お持ちの方も多と思うが、小教区で活用してもらえたら嬉しいと、各小教区に贈呈された。

2. 審議事項

- ・「墓地・納骨堂管理費」の取扱について、津波古事務局長より説明が行われた。名称は「建物維持、共益費」とされることが税務上適切であるので、納骨堂を所有する小教区ではこの点に留意して名称を改めるよう要請が行われた。
- ・コロナ禍が長引く状況下、教区が先に出したガイドラインを弛めることなくしっかりと守るようウェイン司教から要請があった。
- ・日本の教会における「司祭の生涯養成プログラム(案)」について、津波古事務局長よりガイドラインの説明が行われた。日本で働くすべての司祭を対象に、叙階から3～5年の司祭たちには2022年から5泊6日の国内研修が、叙階から15～20年の司祭たちには2023年から2週間程度の海外研修が実施されることになり、教区司祭には参加が義務付けられる内容となっている。それについての意見を事務局長まで寄せてくれるよう要請が行われた。
- ・「カリタス那覇」の発足についてマーシーさんから説明が行われた。文化センターを拠点に、教区の委員会を作り、四旬節や待降節のカリタス・ジャパンの募金活動に協力しながら、教区独自の社会活動を模索していきたい。小教区の協力も不可欠であり、また小教区が直面している社会奉仕活動の課題についても共に考えて解決を模索したい。教区レベルとしてやれること、小教区レベルで取組めること、それらを福音宣教の機会と捉え、様々な場面への対応を検討していきたい。(5頁へ続く)

言うまでもなく、西洋音楽はキリスト教と密接な関係にある。とりわけ、言葉に伴う宗教曲は、より直接的に私達の心に響いてくる。合唱が祈りそのものであることはグレゴリオ聖歌を聞けば一聴瞭然である。と偉そうに書き出したが、ただ好きなのだけの、楽譜もろくに読めない素人である。

古今の宗教曲には名曲が多い。また、「二人の第九」等で分かるように、宗教曲に欠かせない合唱はアマチュアのものであることが素晴らしい。世界の名だたる合唱団にアマチュア合唱団が多いのもうなずける。私のような下手の横好き大歓迎なのである。

ちなみに、年末恒例のペートーヴェンの「第九」は交響曲ではあるが、終楽章のシラーの詩「歓喜に寄す」は神を賛美しつつ手を取り合う人間への讃歌であり、立派な宗教曲である。

横好きの始まりは、中学三年の地区中学の合唱祭だ。熱血指導の音楽教師を選んだ自由曲は、フォーレの「レクイエム」から「入祭唱とキリエ」である。今思えば、中学生にはちょっとどうなの？という選曲だったが、熱心

たて軸よこ軸

宗教音楽と合唱を楽しむ

真栄原教会 千村次生

な音楽教師のもと、合唱メンバーに選ばれ、ひたすら練習し、優秀賞をもらった覚えがある。これが、合唱病の始まりといえる。当時、ミサの典礼は、主たる部分でラテン語であったから、慣れ親しんだ言葉であり、意味もそこそこ分かっていった(つもり)から、他の合唱団員に対して優越感も感じていたと思う。

学生から社会人に成り立てのころは、東京でシンフォニックコーラスに入れ込んだ。その間、から、ハレルヤコーラスを歌ってくれた。懐かしい思い出である。ハレルヤコーラスといえは、仕事の関係で沖繩に移った最初の年末のこと。本土では(ペートーヴェンの)「第九」だが、沖繩は「メサイア」なんだとカルチャーショックを受け、エフエム放送で聞いた演奏の完成度に、沖繩の合唱悔りがたしと感じたものである。

その後、新垣壬敏さんのオペラ「阿麻和利」に出演する機会があり、また那覇教区合唱団のカンタトリカを通じて、同氏作曲の一連の「典礼聖歌」に出会い、日本語のイントネーションと調和的な旋律が織りなす聖歌の素晴らしさを味わせていただいた。

よく知られた曲としては、バツハ「ヨハネ受難曲」、ハイドン「天地創造」「四季」、ヘンデル「メサイア」、モーツアルト「戴冠ミサ曲」「ハ短調ミサ曲」、ペートーヴェン「第九」、ブラームス「ドイツレクイエム」など、多くの曲を歌った。数え上げたらきりが無い。これらは全て宗教音楽である。教会でも聖歌隊に属して歌いまくっていた。私の結婚披露宴では、所属していた合唱団の団員がヘンデルのメサイア

宗教音楽ファンになった理由を深く考えたことは無いが、学校での音楽教育とは別に、幼いころから教会で典礼聖歌に接していたことがベースにはあるように思う。毎日曜日、教会に流れたオルガンと歌声の響きは今も耳に残っている。

聞いただけでも十分に良いが、歌うとなお良い。特に合唱曲は民衆か天使の祈りである曲が多く、歌うことで、より自分の心が沸き立つ(チムワサワサーする)。時には、天使になった気分も味わえる。その上、全身運動であり健康にも良い。繰り返すことになるが、合唱はアマチュアのもの、下手の横好き大歓迎なのである。

さて、西洋音楽が私の信仰生活を豊かにしてくれたのは間違いない。私が天に召される時、この音楽で送ってもらいたいと思う曲がたくさんあって、選曲に困る。落ち着いた室内楽やピアノ曲に加え、中心はやはり合唱曲にしよう。ヴェルディの「レクイエム」のような華々しい曲は参列者がびっくりするのでやめておく。遺言の第一番目は、葬送には「〇〇の演奏によるこの曲」を流すこと、と指定しようと思う。今から選曲が楽しみである。

さて、西洋音楽が私の信仰生活を豊かにしてくれたのは間違いない。私が天に召される時、この音楽で送ってもらいたいと思う曲がたくさんあって、選曲に困る。落ち着いた室内楽やピアノ曲に加え、中心はやはり合唱曲にしよう。ヴェルディの「レクイエム」のような華々しい曲は参列者がびっくりするのでやめておく。遺言の第一番目は、葬送には「〇〇の演奏によるこの曲」を流すこと、と指定しようと思う。今から選曲が楽しみである。

さて、西洋音楽が私の信仰生活を豊かにしてくれたのは間違いない。私が天に召される時、この音楽で送ってもらいたいと思う曲がたくさんあって、選曲に困る。落ち着いた室内楽やピアノ曲に加え、中心はやはり合唱曲にしよう。ヴェルディの「レクイエム」のような華々しい曲は参列者がびっくりするのでやめておく。遺言の第一番目は、葬送には「〇〇の演奏によるこの曲」を流すこと、と指定しようと思う。今から選曲が楽しみである。

- ・マーシーさんからウェイン司教のスケジュール確認が行われた。12月3日は愛楽園教会訪問とミサ(司教と有志の司祭のみ参加)。12月24日は午後7時、開南。12月25日は午前10時に安里でミサを主式。12月27日はゴザ教会訪問、聖家族ミサは午前8時30分。
- ・第2回日本カトリックカンファレンス2020日本キリスト教伝来471周年福音の喜びをわかちあおう2020年11月21日～22日(土・日) ZOOMオンライン会議の案内がなされた。
- ・会議の後、ウェイン司教が主式し、先に帰天されたブイ神父のお父上の追悼ミサが司祭団の共同司式で捧げられた。
- ・次回拡大司祭・助祭会議は12月1日(火) 午前10時～12時、教区センターで行われる。

教区 NEWS 教会

普天間教会二つの講演会

食欲の秋、読書の秋、紅葉の秋等、秋にはたくさんの方の形がありますが、私たち普天間教会の信徒にとってこの秋は、心に体へ滋養となる素晴らしい恵みの秋となりました。

① 石川清司先生・健康講座

十一月十五日、主日のミサ後、首里教会の石川清司先生を講師



にお招きして健康講座が開催されました。石川先生は専門分野の肺がんを中心にして、その他のがんについて、また検診の正しい受け方などをわかりやすく、スライドを使って説明してくださいました。

高度の治療より、治る段階での治療、かかりつけ医を持つこととの大切さを力説されました。

また普段の生活の影響、例えば、煙草の影響、偏った食生活など、少々耳の痛いお話もされました。昨今は女性の肺がん患者も増えているということには驚きました。

患者さんから学ぶことも多々あるとおっしゃった石川先生のお言葉には、キリスト者としての心の深さ、優しさを知らされました。最後に質疑応答がありました。高い年齢層の比率が大きい教会では AED の設置も必要ではとの一人の方の意見には考えさせられました。

② 石原静子さん・私が歩んだ道

もうひとつの講演会は、十月十八日の主日のミサ後に開催されました。講師は普天間教会で



一番の長老、九十一歳の石原静子さんです。石原さんの平常心の態度、暖かい存在感にまず驚かされました。生い立ちからわかりやすくお話になりました。

昭和十九年、十五歳の時に集団就職で上京し、東京大空襲、終戦をへて、九州への疎開、ヤミ米の商売、横浜の外人家庭でのメイド等、波乱万丈の本土での生活の後、昭和二十三年に沖縄に戻ります。米家族部隊でのメイドの後、基地内の売店に就職し、その時の米人同僚のおかげで石原さんははじめて教会を訪れます。毎日曜日のミサに与り、カトリック教会の一員になり、今に至ります。計算の正確さ、迅速さをかわれて銀行に抜擢され、退職するまで約

三十一年間勤めました。

石原さんの話はこれで終わりではありません。退職後は六十歳近くになっていたのにもかかわらず、県立中部商業高校に入學、卒業後は沖縄大学に進学しました。卒業式では総代に選ばれました。その後も現在まで、写真、絵画、フラダンスなど多趣味を誇っていらつしゃいます。

この『南の光明』の一月号、「たて軸よこ軸」欄に自伝が掲載される予定です。ぜひお読みください。

石川先生、石原さん、素晴らしいお話を担当ありがとうございました。(花城喜美江通信員)

司祭叙階十周年のお恵み

石川教会

去る七月十五日、司祭叙階十周年になられたアジツト神父様のお恵みをお祝いしました。アジツト神父様へ信徒会からは胡蝶蘭の鉢植えを贈呈しましたが、その後に予想もしていなかった大きな箱が運ばれてきて、私たちは驚きと好奇心がいっぱいで、何だろうとさくさく開いてみました。箱の中身はアメリカで製作されたという見事な祭服でした。神父様の友人からの素晴らしい贈り物に、私たち

も喜び感激しました。

前面に黄金の刺繍が巧みにほどこされた祭服に信徒一同も大感激で、アジツト神父様のご友人に私たちも心からの御礼と感謝を捧げたいと思いました。祭服の他にローソク立ても頂きました。

主任司祭として石川に赴任されたアジツト神父様の活動は、納骨堂の広い敷地や付属幼稚園の敷地を含め、管理・監督は多岐に渡り、大変な努力を使います。私たち信徒も手助けしたいと思えますが、信徒数も少なくもどかしい思いでいっぱいです。

前任地の普天間教会から毎回お手伝いに来てくださる方々もおられ、周りから愛されている司祭を主任にお迎えできたことをこの上ないお恵みと喜んでいきます。

アジツト神父様を中心に、石川の信徒会も頑張っていきたいと思えます。アジツト神父様、司祭叙階十周年おめでとうございます。(仲本通信員)

洗礼おめでとう

ごぞいませ

石川教会(六月十四日)

崎間 晴溜

崎間 悠利

MyBible シリーズのご紹介

み言葉を日常生活において、いかに実践すべきかを、具体的に分かり易く、しかも読み易い本「MyBibleシリーズ」が全巻で7冊完成しました。この度、下記のURLにアクセスすることで、全巻が無料でダウンロードでき、パソコンやスマホで読むことができます。コロナ禍にあって、生活環境が大きく変わろうとしている今、み言葉を静かに黙想する機会になればと願っています。

URL <http://www.cisj.co.jp/items/sonota.html>

カトリック関口教会信徒 蒲池 明憲

計報

- ◆石垣教会
ヨハネ 川村 実知男 様
二〇二〇年十月二十四日帰天
享年八十五歳
- ◆宮古島平良教会
ヘレナ 狩俣 桂子 様
二〇二〇年十月十二日帰天
享年七十八歳
- ◆南静園教会
ヨハネ 前川 特造 様
二〇二〇年十月十七日帰天
享年八十八歳
- ◆安里教会
マリア・マグダレナ 與那城 光子 様
二〇二〇年十一月十二日帰天
享年八十六歳
- ◆開南教会
ヨゼフ 大城 元盛 様
二〇二〇年十一月十九日帰天
享年七十九歳
- ◆首里教会
アシジのフランシスコ 篠原 昭夫 様
二〇二〇年十一月二十八日帰天
享年八十五歳
- ◆与那原教会
シスターアンジェラ 徳田 節子 様
二〇二〇年十一月三十日帰天
享年八十五歳

教皇フランシスコ 来日公式記録DVD 完成のお知らせ



2019年11月、ヨハネ・パウロ2世以来、38年ぶりに来日したローマ教皇フランシスコの4日間。その軌跡と言葉を後世に伝えるため、公式記録DVDを制作いたしました。歴史的な瞬間をぜひ映像でご体験ください。



■DVDのお申し込み
DVDをご希望の方には、1口6千円以上の献金につき1冊を贈りたいします。配布開始は11月末から、お申し込み終了は2021年2月末を予定しています。
*お申し込み期間と配布開始時期は変更される場合がありますので、ご了承ください

■DVD概要【POPE IN JAPAN 2019 すべてをいのちを守るため～教皇フランシスコ 来日の軌跡～】

- | | |
|--|------------------------------|
| 1 来日ドキュメンタリーほか(全103分) | 2 教皇メッセージ集(全135分) |
| 1 挨拶(すべてをいのちを守るため～教皇フランシスコ 来日と言葉～) | 1 教皇について(長崎・熊本・鹿児島) |
| 2 教皇ミサ(バチカン・東京ドーム) | 2 海客への表紙(長崎・西宮) |
| 3 教皇ミサ(バチカン・東京ドーム) | 3 ミサ後～主であるキリストの休日～(長崎県立野球場) |
| 4 聖する日本の皆さんへ～訪日に向けて 教皇からのメッセージ～ | 4 平和のための願い(広島平和記念公園) |
| 5 教皇フランシスコとカトリック教会～訪日に向けた教皇の歩み～ | 5 東日本大震災被災者への思い(東京・ベルナルド半蔵門) |
| 6 公式撮影(すべてをいのちを守るため) | 6 青年との思い(東京カドラル聖マリア大聖堂) |
| 7 オフィシャルテーマソング(PROTECT ALL LIFE～詩のしるし～) | 7 ミサ後～すべてをいのちを守るため～(東京ドーム) |
| 8 オフィシャルテーマソング(PROTECT ALL LIFE～詩のしるし～)新付ビデオ | 8 上智大学訪問(空港へ出発(東京・上智大学)) |

完全記録版2枚組DVDディスク(パッケージ入り)永久保存版
●郵便局の払い込み用紙の場合
「通信欄」に、送付先(住所、氏名、電話番号)と「DVD」ご希望と記載ください。
郵便番号 00120-7-410103
宗教法人カトリック中央協議会献金第一口
●銀行ATM、ネットバンキング等からのお振込
ゆうちょ銀行 ○一九店(当座)0410103宛になります。
お振込後、中央協サイト
(<https://www.cbj.catholic.jp/2020/10/10/21272/>)
のフォームから、送付先(住所、氏名等)、「DVD」ご希望とご連絡ください。

カトリック中央協議会 教皇訪日準備室
〒135-8585 東京都江東区潮見2-10-10 電話 03-5632-4411(代) FAX 03-5632-4453



NPO 法人ぶどう園の会

訪問看護ステーションクララ

TEL&FAX:098-937-5001
住所 沖縄市泡瀬2丁目37-15
・基本受付 月曜日～金曜日(申込、相談など)
・営業時間 8:30～17:30
・営業日 24時間365日(緊急対応含む)

Book カトリック文化センター 年末年始休業のお知らせ

今年も皆様には大変お世話になりました。文化センターは2020年12月30日(木)～2021年1月3日(日)までお休みとなります。1月4日(月)からの営業開始となります。来年もよろしくお願ひ申し上げます。

〒900-0005 那覇市天久1-8-7 電話・FAX098-868-4649

葬祭の「やすらい企画」

「やすらい企画」
24時間受付

私たちは故人とご遺族の意向を最優先に考えます。何でもご相談下さい。

那覇市首里鳥掘町4-57-3
TEL&FAX:098-885-8205
<http://w1.nirai.ne.jp/yasurai>
E-mail:yasurai@nirai.ne.jp

～ご遺族の心をもって奉仕する～
そうてんしや

葬典社

*創業30数年・・・。
*皆様に支えられ「感謝」とともに人生を閉じるためのお手伝いをさせていただいております。
*ご質問、ご相談、24時間、いつでもお電話下さい。
「ゆうなの会」会員募集中です。

ひが たかしげ
(実務担当) 比嘉 高茂

24時間受付
てんごく
☎098-853-1059

主日・クリスマス・新年のミサ時間案内 Mass Schedule

教会	主日のミサ Sunday's Mass		クリスマス Christmas		新年 NewYear	司 祭 Priest	TEL
	日曜日 Sunday	土曜日 Saturday	24日(木)	25日(金)	★は12月31日		
名 護 Nago	10:00		19:00	19:00	10:00	ボスコ・ティン師	0980-52-2241
愛楽園 Airakuen	8:00		8:00		8:00	ボスコ・ティン師	0980-52-8379
読 谷 Yomitan	9:00 11:00		19:30	10:00	10:00	リカルド・ブガス師	098-956-3789
石 川 Ishikawa	9:30	17:00	19:00	10:00	10:00	アジット・ロドリゲス師	098-864-2084
具志川 Gushikawa	9:30		19:00	9:30	31日 19:00 1日 9:30	サニー・カンティラーノ師	098-974-3643
泡 瀬 Awase	9:30		19:30	19:30	9:30	ヨゼフ・ブイ師	098-937-3598
コ ザ Koza	8:30 10:30(英語)		19:00	8:00 9:30(英語)	8:30(英語) 10:00	ピーター・チェ師	098-937-7064
普天間 Futenma	9:00	English 18:30	19:00 20:30 (スペイン語) 21:00	9:00	31日 19:00 三が日 9:00	ナビーン・セクウェラ師	098-892-2503
真栄原 Maehara	9:00 10:30		19:30 21:00	10:00	9:00 10:30	ヨアキム・ホアイ師	098-897-7484
首 里 Shuri	9:00		19:00	19:00	31日 19:00 三が日 9:00	ロドニー・モンディド師	098-884-4787
安 里 Asato	7:00 9:00	19:00	19:30	10:00	31日 23:00 1日 10:00	フランシス・ティエン師	098-863-2021
開 南 Kainan	9:30 19:00		19:00	15:00 19:00	0:00 9:30	古川政孝師	098-832-3037
小 禄 Oroku	10:00	English 19:00	19:00	10:00	三が日 10:00	デニス・フェルナンデス師	098-857-2128
与那原 Yonabaru	8:00 10:00		未定	未定	未定	クレバー・ディ・ソーザ師	098-945-2355
大 里 Ozato							
宮古島平良 Miyakojima	9:00		19:00 21:00	9:00	1日 10:00	藤澤幾義師	0980-72-2445
保 良 Bora		19:00				藤澤幾義師	
南静園 Nanseien						藤澤幾義師	
石垣 Ishigaki	9:00 10:00	毎日 6:30	19:00	10:00	31日 19:00 1日 10:00	マイケル・ヴィン師	0980-82-2322

Misa en Español スペイン語ミサ Padre Patrick Sullivan (パトリック・サリバン師) 090-1947-1171	与那原 Yonabaru	Premer Domingo (第1日曜日) 19:00	★31.Diciembre 2020 Futenma(普天間) (日・英・スペイン語) 23:00 Facebook iglesia Okinawa
	読 谷 Yomitan	Sabado antes del 2do. Domingo 第二土曜日の前夜(土曜日) 18:00	
	小 禄 Oroku	Segundo Domingo (第2日曜日) 19:00	
	名 護 Nago	Tercer Domingo (第3日曜日) 19:00	
	普天間 Futenma	Cuarto Domingo (第4日曜日) 19:00	